

ロタウイルスワクチン予防接種 説明文

ロタウイルスワクチンの接種を実施するにあたって、接種を受けるお子さんの健康状態をよく把握する必要があります。予防接種の前に必ずこの説明文をお読みになり、「ロタウイルスワクチン予防接種予診票」にご記入の上、医師の診察を受けてください。

* 予防接種の効果や副反応などについて理解した上で、お子さんの予防接種についてご判断いただきますようお願いいたします。

1 ロタウイルスについて

ロタウイルスは、世界のどこにでもみられる、主に5歳未満の乳幼児に多くみられる急性胃腸炎の原因ウイルスです。主な症状は下痢・嘔吐・発熱などで、ときに脱水、けいれん、肝機能異常、腎不全を、希ですが急性脳症等を合併することがあります。年齢にかかわらず何度でも感染発病しますが、乳児期での初感染が最も重症で、その後感染を繰り返すにつれて軽症化していきます。

2 ロタウイルスワクチンと効果について

ロタウイルスワクチンには、ヒトロタウイルスを弱毒化した経口弱毒化ヒトロタウイルスワクチン(1価(ロタリックス)ワクチン)とウシ・ヒトロタウイルスを再集合させた5価経口弱毒生ロタウイルスワクチン(5価(ロタテック)ワクチン)があります。両ワクチンとも、ロタウイルス感染による胃腸炎を約80%予防し、重症ロタウイルス感染症の約95%を予防する効果があります。

3 接種時期について ※原則として、同じワクチンで接種を完了する

ワクチン名	対象年齢	標準的な接種時期	接種間隔	合計回数	接種方法
1価弱毒生ワクチン (ロタリックス)	生後6週から 24週までの間	生後2か月 (初回接種は生後 14週6日までが望 ましい)	27日以上の間隔を あける	2回	経口接種
5価弱毒生ワクチン (ロタテック)	生後6週から 32週までの間			3回	

注) ワクチンは経口接種なので、赤ちゃんのお腹がいっぱいと、上手にワクチンが飲めない場合があるため、接種前30分ほどは授乳を控えることをお勧めします。上手に飲めるよう、医師、看護師の指示に従ってください。なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再度接種する必要はありません。

4 予防接種を受けることができない方

- (1) 明らかに発熱(通常37.5℃以上をいいます)している方
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- (3) このワクチンに含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある方

「アナフィラキシー」とは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことで、発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状やショック状態になるようなげっし全身反応のことで、

- (4) 腸重積症の既往のある方
- (5) 腸重積症の発症を高める可能性がある未治療の先天性消化管障害を有する方
- (6) 重症複合型免疫不全(SCID)を有する方
- (7) その他、かかりつけ医師が予防接種を行うことが不適当な状態と判断した場合

(裏面に続く)

5 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- (1)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- (2)過去に予防接種で、接種後2日以内に発熱・発疹・じんましん等アレルギーを思わせる異常がみられた方
- (3)過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある方
けいれんの起こった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後起こっているか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ずかかりつけ医と事前に相談しましょう。
- (4)免疫機能に異常がある疾患を有する方及びそのおそれがある方、免疫抑制をきたす治療を受けている方、近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- (5)ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるのでこれらにアレルギーがあるといわれたことのある方
- (6)胃腸障害(活動性胃腸疾患、慢性下痢)のある方

6 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- (1)予防接種を受けた後 30 分程度は医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- (2)接種後、生ワクチンでは 4 週間は副反応の出現に注意しましょう。また、異常反応や体調の変化があったらすぐに医師の診察を受けましょう。
- (3)接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが接種部位をこすることはやめましょう。
- (4)接種当日は、激しい運動は避けましょう。

7 副反応について

接種後は、アナフィラキシーや腸重積症状に注意が必要です。特に初回接種後 1 週間以内に、腸重積症状(泣く・不機嫌を繰り返す、腹痛、反復性の嘔吐、血便、腹部膨満感、高熱)のどれか1つでも認められたときは、速やかに医療機関に受診するようにしてください。接種後 2 週間ほどは、赤ちゃんの便の中に、ワクチンのウイルスが含まれることがあり、おむつ交換の後など、ていねいに手を洗ってください。医療機関からの副反応疑い例(有害事象)として報告されたうちの重篤症例(報告者が重篤として判断するもの)の発生頻度は、1価ワクチンは 0.0030%、5価ワクチンは 0.0021%です。(平成 25(2013)年 4 月 1 日～令和 7(2025)年 9 月 30 日までの数値。)

8 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

※給付申請の必要性が生じた場合には、診察した医師、江別市保健センターへご相談ください。

Q&A

Q 1 回目の接種が生後 14 週 6 日を過ぎてしまったら、もう接種できませんか。

A 週齢が高くなるにつれ自然発症による腸重積のリスクが増加しますので、生後 14 週 6 日を超えての初回接種はお勧めできません。

やむを得ず 15 週以降の初回接種となった場合、接種後は腸重積症を示唆する症状(接種後に保護者に説明)に十分注意し、腸重積症を疑う症状がみられたら速やかに医療機関を受診してください。

お問い合わせ先:江別市保健センター TEL011-385-5252